



国立大学法人 和歌山大学 広報室
TEL:073-457-7010・FAX:073-457-7158
<https://www.wakayama-u.ac.jp>

令和8年9月10日

ご取材のお願い

和歌山大学が災害科学・レジリエンス共創センター シンポジウムを開催
**紀伊半島大水害から15年、被災地の経験を次世代へ
大規模土石流と深層崩壊を比較し、復旧・復興と未来の防災を考える**

和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター（センター長：江種 伸之）は、地域に根ざした防災・減災・復興の研究と実践を進めてきました。本シンポジウムでは、紀伊半島大水害から15年を迎える節目に、行政・地域住民、研究者、学生が一堂に会し、被災当時の状況から復旧・復興の歩み、そして将来の課題を共有します。災害の経験を単なる過去の出来事としてではなく、「地域の共有知」として位置づけ、次世代へ語り継ぐことで、未来のレジリエンス（回復力・強靱性）を高める場を提供します。

地域に根ざした国立大学として、災害の記録と教訓を学術的に整理・発信し、行政・地域・住民・次世代をつなぐ場として、本シンポジウムを開催します。

開催のポイント

- 紀伊半島大水害から15年——被災から復旧・復興、そして未来の防災へ
- 「大規模土石流」と「深層崩壊」——異なる地質で発生した2つの土砂災害を写真で比較
- 行政・研究者・地域が登壇——それぞれの立場から15年間の歩みと課題を共有
- 次世代への継承——防災絵本の読み聞かせと中学生防災士とのトークショー
- 地域の経験を未来の共有知へ——「あの災害」を次の世代の防災・減災につなげる

開催概要

名 称：紀伊半島大水害から15年 — 過去・現在、そして未来へ —

日 時：令和8年11月23日（月祝）12:30～16:30（受付12:00～）

会 場：和歌山県立情報交流センター Big・U 会議室1（和歌山県田辺市新庄町3353-9）

参加費：無料

定 員：100名（当日先着順・事前申込不要）

対 象：一般市民、防災関係者、自治体職員、教職員、学生、研究者ほか

主 催：和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター

取材について

当日は、講演・パネルディスカッションのほか、防災絵本の読み聞かせや中学生防災士とのトークショーの取材、講師・登壇者へのインタビューが可能です。

本件についてのお問い合わせ

和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター（事務局）木下顕次
〒640-8510 和歌山市栄谷930 TEL：073-457-7558（土日祝除く10時～16時）
Email：saigai@ml.wakayama-u.ac.jp
Web：<https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>

プログラム（予定）

時間	内容	登壇者
12:30～12:35	開会挨拶	本山 貢（和歌山大学長）
12:40～13:15	基調講演 1 「紀伊半島大水害の実態」	後 誠介（和歌山大学客員教授）
13:20～13:55	基調講演 2 「紀伊半島大水害からの復旧・復興」	竹下 航（国土交通省近畿地方整備局紀伊山系砂防事務所長）
13:55～14:05	（休憩）	
14:05～14:40	基調講演 3 「土砂災害に対する啓発活動」	木村 洋郎（和歌山県土砂災害啓発センター所長）
14:45～15:00	防災絵本読み聞かせ 「川がパンクしちゃった！ もりのがっこうとどうぶつたち」	佐藤 愛美（智辯学園和歌山中学校 3 年生／防災士）
15:00～15:15	トークショー	佐藤 愛美 & 後 誠介
15:15～15:25	（休憩）	
15:30～16:25	パネルディスカッション	コーディネーター：江種 伸之（センター長） パネリスト：後 誠介、竹下 航、木村 洋郎、谷口 順一（伏菟野の明日を考える会代表）
16:25～16:30	閉会挨拶	江種 伸之（和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター センター長）

注意事項

- ① **入場制限**：会場の定員（100 名）を超過した場合は、安全確保のため入場をお断りすることがあります。
- ② **合理的配慮**：会場内には当初より要約筆記を配置いたします。
※要約筆記とは話し手の内容をその場で要約し文字で伝える情報保障支援です。

添付資料

シンポジウムチラシ（PDF） ・ 開催要項（PDF）

